

【本当の気持ちを汲み取る】

先日、てのひらでお看とりをさせて頂きましたAさんのことを偲びながら、改めて学んだことを共有します。

看とりは、感性が大切で、看取る側の人の人生観、死生観そして、人柄が出ると言われています。一人ひとり、その時によって「看とり方」が違うので、私たちは日々自己研鑽を積み、質の向上を目指し、学んでいく必要性があると強く、心に留めたことです。

終末期においては、特に意思決定支援や元気なうちからの ACP（人生会議）、リビングウィルといった意思表示等々が大切になります。

私自身も上記のことを含めた「みとりの心」を日々大切にしています。



先日のAさんのケースで私が感じたことですが、

例えば、本人が発した言葉の中で「すぐに死んでもいい、早く死にたい」と

言った場合、鬱状態や薬物の影響に作用されていることもあるという見方があります。

また意思表示ができる能力があっても、周囲への遠慮やあきらめから本当の気持ちを口にできない状況も生じます。

そんな時は、本人が自分の本当の気持ちに気づけて、本当の気持ちを伝えられる条件を整える必要があると思います。

では、その場面が来た時、どのようにその条件を整えることが、私たちにできるのでしょうか。

看取りのプロデュースという言葉があるように、相手をじっくり知ることから始まって、

ナラティブケアから信頼関係を紡いで関わる大切ではないでしょうか。

そして、言葉にならない気持ちを汲み取れるくらいその方の全体像をアセスメントできる力は必要です。



ACP の留意点

本人の意思と本人の発言は必ずしも同一ではない。

対話を通じて本人の本当の気持ちを探ることも ACP の重要な目的。

■今回、私たち自身の人生に対する今の「心づもり」を自分で知る機会になればと思い、シートを用意しました。

このシートに記入するだけで、毎日の生き方の質が向上すると言われています。試しに記入してみてください。

新しい年を迎えさらに頑張ってくれているみなさんに感謝致します。

今月もお疲れ様でした。

2024年2月13日

呉 静恵

